2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月６日

上場会社名　株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ　上場取引所　東
コード番号　603A　ＵＲＬ　https://igrid.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）秋田　智一
問合せ先責任者　（役職名）執行役員　管理部長　（氏名）大野　秀二　ＴＥＬ　03（3230）1280

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	6,068	－	637	－	444	－	310	－
2026年６月期第１四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	8.97	8.13
2026年６月期第１四半期	－	－

（注）１．当社は、2026年６月期第１四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2026年６月期第１四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2027年６月期第１四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
２．当社は、2026年７月29日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、2027年６月期第１四半期の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益は、新規上場日から2027年６月期第１四半期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	45,254	11,867	26.2
2026年６月期	44,294	8,532	19.3

（参考）自己資本　2027年６月期第１四半期　11,867百万円　2026年６月期　8,531百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年６月期	－				
2027年６月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年６月期の業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,966	20.5	3,844	7.3	3,080	7.4	2,140	10.3	59.57

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. ７「２．四半期財務諸表及び主な注記（３）四半期財務諸表に関する注記事項（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	36,380,000株	2026年６月期	32,110,000株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	―株	2026年６月期	―株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	34,628,489株	2026年６月期１Ｑ	―株

（注）当社は2026年６月期第１四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2026年６月期第１四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P. ３「１. 経営成績等の概況（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 8

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第１四半期累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果などを背景に、緩やかな回復基調が続きました。一方で、中東情勢をはじめとする地政学的リスクや物価上昇、金融資本市場の変動など、国内外の経済を取り巻く不確実性は依然として高く、景気の先行きについては引き続き注視が必要な状況となっております。

当社事業環境に関しては、2025年２月に閣議決定された第７次エネルギー基本計画において、2040年度の電源構成に占める再生可能エネルギーの割合を４～５割程度とする見通しが示されたほか、2026年７月に閣議決定された「日本成長戦略」においても「資源・エネルギー安全保障・GX」が17の戦略分野の一つに位置づけられるなど、国を挙げた脱炭素化への取組が一段と具体化しております（GX：グリーン・トランスフォーメーション）。こうした中、気候変動問題への対応は、引き続き上場企業のみならず、そのサプライチェーンに関わる非上場の中堅・中小企業にとっても重要な経営課題となっております。

電力業界に関する状況は、GX推進が加速する中で依然として変化の只中にあります。日本卸電力取引所（以下、「JEPX」といいます。）の価格は、中東情勢などの影響を受け上昇傾向となっており、当第１四半期累計期間の平均価格は18.72円/kWh（前年同期間の平均価格は12.12円/kWh）となっています。

このような状況の下、当社は前事業年度に引き続きGXソリューション事業の成長を推進してまいりました。当社の主要サービス（オンサイトソーラーを保有する「PPAサービス」、アライアンスパートナーと提携してオンサイトソーラーの拡大を推進する「アライアンスソリューション」、太陽光や蓄電池等を組み合わせたGHG（温室効果ガス：Greenhouse gas）排出量ゼロに貢献する次世代型店舗/倉庫（GX Store/GX Logistics）を構築する「インテグレーションサービス」）を通じて稼働した太陽光発電施設が、2026年９月末で累計1,594施設に達し、発電容量にして440MWとなりました。更に、各サービスの契約獲得件数も順調に伸びております。また、エナジートレーディング事業においては、前年同期と比較して空調需要が減少したことなどから、電力販売量は前年同期を下回って推移しました。一方で、JEPX価格が前年同期を上回る中、JEPX価格に連動した販売料金体系による市場価格変動リスクの抑制や、GXソリューション事業から生み出される余剰電力調達を含めた細やかな需給管理等に取り組みました。

以上の結果、当第１四半期累計期間の業績は、売上高6,068,932千円、営業利益637,152千円、経常利益444,629千円、四半期純利益310,784千円となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

（GXソリューション事業）

GXソリューション事業においては、当第１四半期累計期間に「PPAサービス」及び「アライアンスソリューション」が新たに容量ベースで15MW稼働、「インテグレーションサービス」３施設が新規稼働するなど順調に推移しております。

この結果、当第１四半期累計期間のセグメント売上高（セグメント間の内部売上高を含む）は2,433,777千円、セグメント利益は573,179千円となりました。

（エナジートレーディング事業）

エナジートレーディング事業においては、JEPX価格が前年同期を上回る中、JEPX価格に連動した販売料金体系による市場価格変動リスクの抑制や、GXソリューション事業からの余剰電力調達を含めた細やかな需給管理等に取り組みました。

この結果、当第１四半期累計期間のセグメント売上高（セグメント間の内部売上高を含む）は3,701,474千円、セグメント利益は434,141千円となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第１四半期会計期間末における資産合計は、45,254,746千円となり、前事業年度末に比べ960,642千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が1,905,628千円増加した一方で、売掛金及び契約資産が898,859千円減少したことによるものであります。

（負債）

当第１四半期会計期間末における負債合計は、33,387,005千円となり、前事業年度末に比べ2,375,009千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が428,111千円増加した一方で、未払法人税等が388,210千円の減少、流動負債「その他」の短期借入金が400,000千円、未払金が1,752,052千円、未払消費税等が261,283千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産合計は、11,867,740千円となり、前事業年度末に比べ3,335,652千円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上に加え、東京証券取引所グロース市場への上場に伴い、新株発行による資本金及び資本準備金がそれぞれ1,512,434千円増加したことによるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年６月期の業績予想につきましては、2026年８月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、当該業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2026年６月30日）	当第１四半期会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,298,788	9,204,417
売掛金及び契約資産	4,698,840	3,799,981
棚卸資産	313,637	259,662
その他	372,853	342,088
貸倒引当金	△2,869	△1,537
流動資産合計	12,681,249	13,604,611
固定資産		
有形固定資産		
機械及び装置（純額）	21,288,850	21,484,356
リース資産（純額）	8,263,805	8,172,045
その他（純額）	388,514	267,907
有形固定資産合計	29,941,170	29,924,309
無形固定資産	1,300,660	1,285,217
投資その他の資産		
その他	371,165	441,369
貸倒引当金	△141	△761
投資その他の資産合計	371,023	440,608
固定資産合計	31,612,854	31,650,135
資産合計	44,294,103	45,254,746

（単位：千円）

	前事業年度 （2026年６月30日）	当第１四半期会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,228,722	1,342,726
１年内返済予定の長期借入金	1,792,619	1,834,182
未払法人税等	554,930	166,720
賞与引当金	70,602	36,606
その他	3,915,696	1,422,293
流動負債合計	7,562,570	4,802,529
固定負債		
長期借入金	16,570,965	16,999,077
リース債務	7,252,637	7,148,056
資産除去債務	4,240,438	4,304,383
その他	135,401	132,958
固定負債合計	28,199,444	28,584,476
負債合計	35,762,015	33,387,005
純資産の部		
株主資本		
資本金	103,751	1,616,185
資本剰余金	4,892,415	6,404,849
利益剰余金	3,535,827	3,846,611
株主資本合計	8,531,994	11,867,646
新株予約権	94	94
純資産合計	8,532,088	11,867,740
負債純資産合計	44,294,103	45,254,746

（２）四半期損益計算書

（単位：千円）

	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	6,068,932
売上原価	4,543,706
売上総利益	1,525,226
販売費及び一般管理費	888,073
営業利益	637,152
営業外収益	
受取利息	10,968
その他	1,262
営業外収益合計	12,231
営業外費用	
支払利息	177,295
その他	27,458
営業外費用合計	204,753
経常利益	444,629
特別損失	
固定資産除却損	789
特別損失合計	789
税引前四半期純利益	443,839
法人税等	133,055
四半期純利益	310,784

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第１四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

当第１四半期累計期間（自2026年７月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報及び収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期財務諸表計上額（注）２
	ＧＸソリューション	エナジートレーディング	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,368,051	3,700,881	6,068,932	－	6,068,932
外部顧客への売上高	2,368,051	3,700,881	6,068,932	－	6,068,932
セグメント間の内部売上高又は振替高	65,725	592	66,318	△66,318	－
計	2,433,777	3,701,474	6,135,251	△66,318	6,068,932
セグメント利益	573,179	434,141	1,007,320	△370,168	637,152

（注）１．調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△370,168千円は、セグメント間取引消去と報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に管理部門等に係る費用であります。

２．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社株式は、2026年７月29日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この株式上場にあたり、2026年７月28日を払込期日とする一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株式2,689,000株の発行、及び2026年８月26日付で第三者割当増資による新株式1,581,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,512,434千円増加しております。この結果、当第１四半期会計期間末において、資本金が1,616,185千円、資本剰余金が6,404,849千円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	562,644千円
のれんの償却額	6,189